



k-Report

外部システム連携用API

ご利用サンプル

V1.02

実際にシステム開発を行うエンジニア向けの機能です

k-Report APIとは？

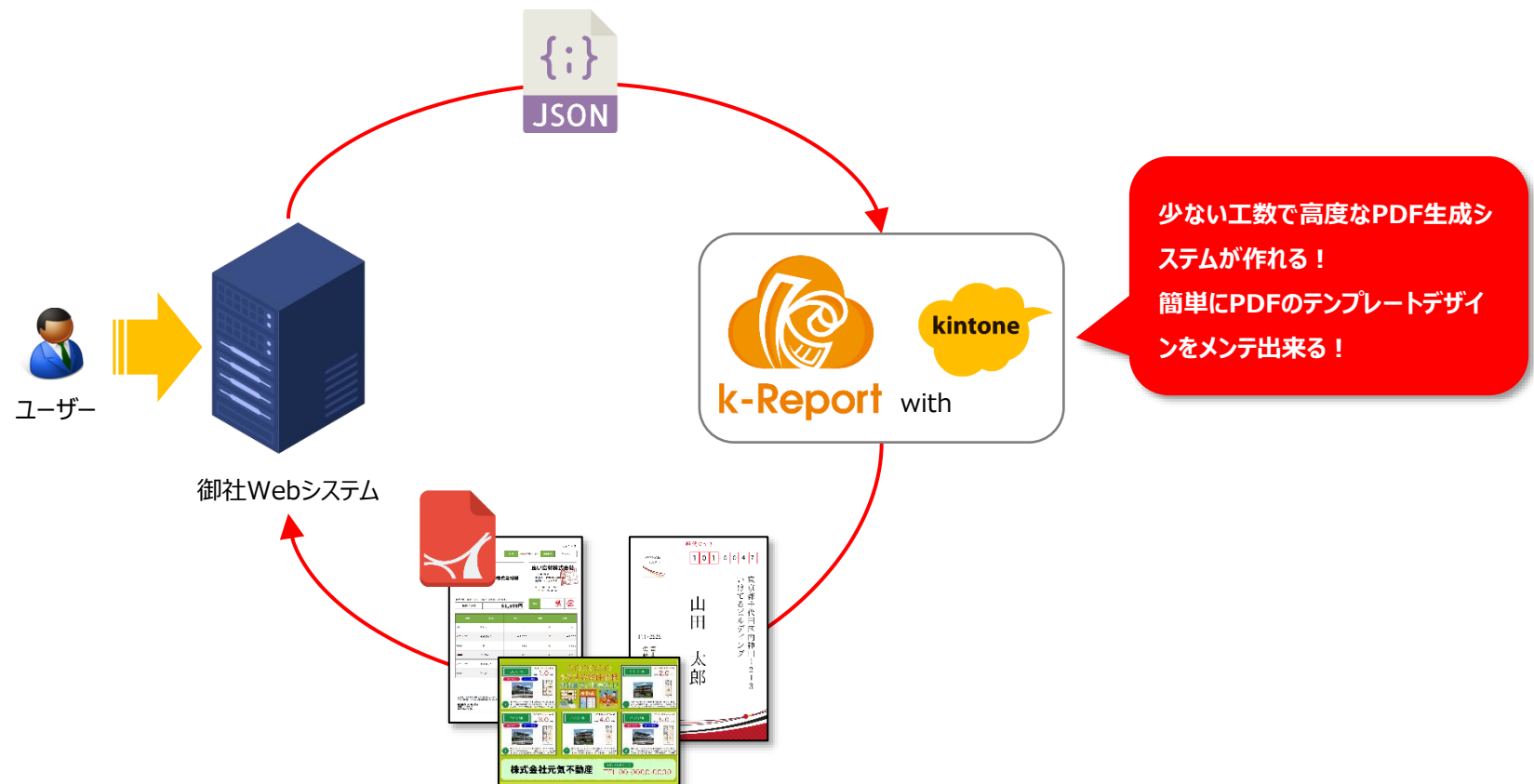
k-Report APIとは？

k-Report APIとは、「**kintone上で構築されたk-Reportの帳票生成機能を外部のシステムから利用する事が出来る**」APIです。この機能を活用いただくと外部システムからPDF生成に必要なデータをkintoneに連携頂く事で簡単に高度なPDF生成のシステムを構築する事が出来るようになります。

※簡単なAPI動作サンプルは

https://k-report.work/#api_demo

でもご覧頂けます



APIご利用のための接続トークンと帳票トークンの取得方法

APIご利用のための接続トークンと帳票トークンの取得方法

①アカウント情報の画面下部より「接続トークン」を取得する

k-Report

本番DEMOユーザー さん

帳票メニュー

- kintone接続設定
- kintoneアプリ
- アプリ連携
- PDFテンプレート
- PDF出力履歴

ユーザーメニュー

- アカウント情報
- パスワードの変更
- お問い合わせ

LINK

- 機能概要紹介動画
- スタートアップガイド

System

- ログアウト

アカウント情報の変更

編集

ユーザー名 ※必須

本番DEMOユーザー

メールアドレス ※必須

demo@a-job.dev

ページ数の多いPDFを生成する時の、生成完了時通知先のメールアドレス ※必須

demo@a-job.dev

月間の最大出力可能枚数

10,000 枚まで

登録日

2022-09-12

[k-Report API] Connection TOKEN

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

変更を保存

APIのご利用が有効な場合、「アカウント情報」の画面下部にAPI用の接続トークンが表示されていますので、こちらを控えてください。

②対象の帳票設定の画面下部より「帳票トークン」を取得する

k-Report DEV MODE

帳票新規登録

一覧タイプ

レコード一覧、ラベル印刷等の検索結果のkintoneのレコード一覧を使うタイプ
※一覧タイプではkintoneテーブルのフィールド、アプリ連携のフィールドはご利用になれません

ページアップタイプ ※必須 [動画でページアップ機能について確認](#)

- データに合わせて自動ページアップ
各種伝票等、データの量に合わせて帳票ページ数が自動変動するタイプ
デザイン画面にて自動ページアップの条件を設定可能です。
- PDFテンプレートと同じページ構成
はがきや契約書等、ページ構成が固定しているタイプ
アップロードしたPDFの構成のまま出力され、デザイン画面で設定した自動ページアップの条件は無視されます。

プレビュー時にkintoneから取得するデータ件数 ※必須 (※プレビュー内容は新しいレコードから指定件数分が取得されます)

1

追加詳細設定

備考

備考を入力

[k-Report API] Report TOKEN

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

戻る 変更を保存 帳票デザイナーを起動 PDFプレビュー この帳票のkintoneアプリを開く

APIのご利用が有効な場合、「帳票設定」の画面下部にAPI用の帳票トークンが表示されていますので、こちらを控えてください。

PHPのサンプルにAPIトークンとクエリを設定して、接続を確認する

※サンプルはPHPで記載していますが、k-Report APIはJSON形式のデータ通信が可能な言語 (JavaScript, Python, Ruby, C#等) であれば種類は問いません。

PHPのサンプルにAPIトークンとクエリを設定して、接続を確認する

```

1 <?php
2
3 // =====
4 //
5 // こちらはk-Report APIのPHPでのご利用サンプルです。JSON形式でのAPIアクセスが可能ですので、他のプログラミング言語でもご利用いただけます。
6 //
7 // =====
8
9
10 // -----
11 // アクセス設定
12 // -----
13
14 // (必須) API用の Connection TOKEN
15 $connection_token = "XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX";
16
17 // (必須) 指定帳票の Report TOKEN
18 $report_token = "ZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ";
19
20 // (必須) ターゲットとなる帳票でのクエリ。空は無効になりますので、必ずデータを絞り込むクエリを記載ください。
21 // レコードターゲット一覧を表示して、ブラウザコントロールから kintone app.getQuery() でクエリを取得して limit 句等は除去すれば設定が早いです。
22 $query = 'レコード番号 >= "1" and レコード番号 <= "3" order by レコード番号 desc';
23
24 // PDF出力履歴に残すユーザー名
25 $user_name = "APIユーザー";
26
27 // 保存先ターゲットとなる添付ファイルフィールド。不要な場合は空を設定してください。
28 $atcode = "添付先フィールドコード";
29
30 // -----
31 // 処理サンプル
32 // -----
33
34 // PDF生成用データ取得API Gateway アドレス
35 $base_url = "https://www.k-report.work/_prd/crd/api/krd/api_pdf_batch.php";
36
37 // httpヘッダーの設定
38 $header = ["X-Kreport-API-Token: " . $connection_token];
39
40 // httpアクセスオプション設定
41 $options=array(
42     'http' =>array(
43         'method' => "GET",
44         'header' => implode("\r\n", $header),
45     )
46 );
47
48 // APIにアクセスしてレコード毎のPDF生成URLをJSON形式の一覧で取得する
49 $res_json = file_get_contents($base_url . "?t=" . $report_token . "&user=" . urlencode($user_name) . "&query=" . url
50     stream_context_create($options));

```

①こちらに接続IDを入力してください。

②こちらに帳票IDを入力してください。

③PDF出力履歴に残すユーザー名
kintoneアプリの管理者としてログインしたユーザー名を入力してください。

④添付フィールドコードを
ドココードを
KRD_OUTFILEと指定してください。

実際の取得結果は、
梱のPHPファイル
文をご確認ください。

①こちらに接続トークンを設定してください

②こちらに帳票トークンを設定してください

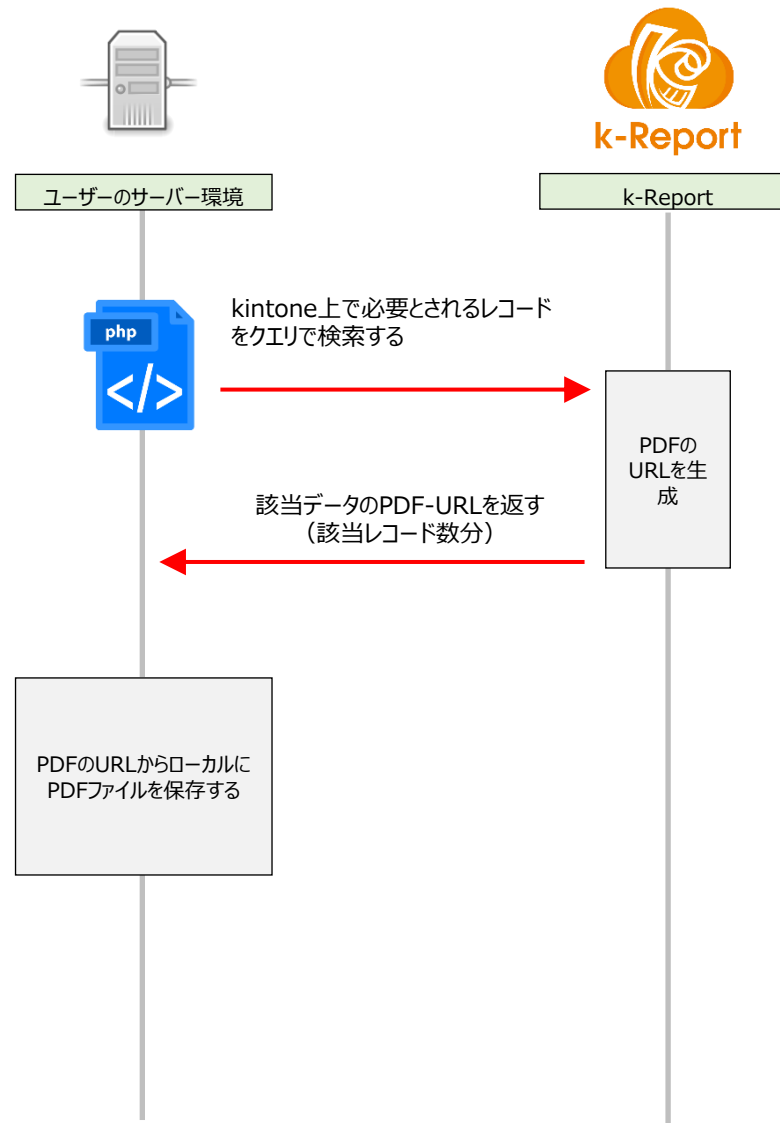
③PDF出力対象レコードを検索する

④ 添付ファイルフィールドに出力する場合はこちらにフィールドコードを入力。クラウドストレージのみに出力する時は `KRD_OUTPUT_CLOUD_STORAGE_ONLY` と指定してください。

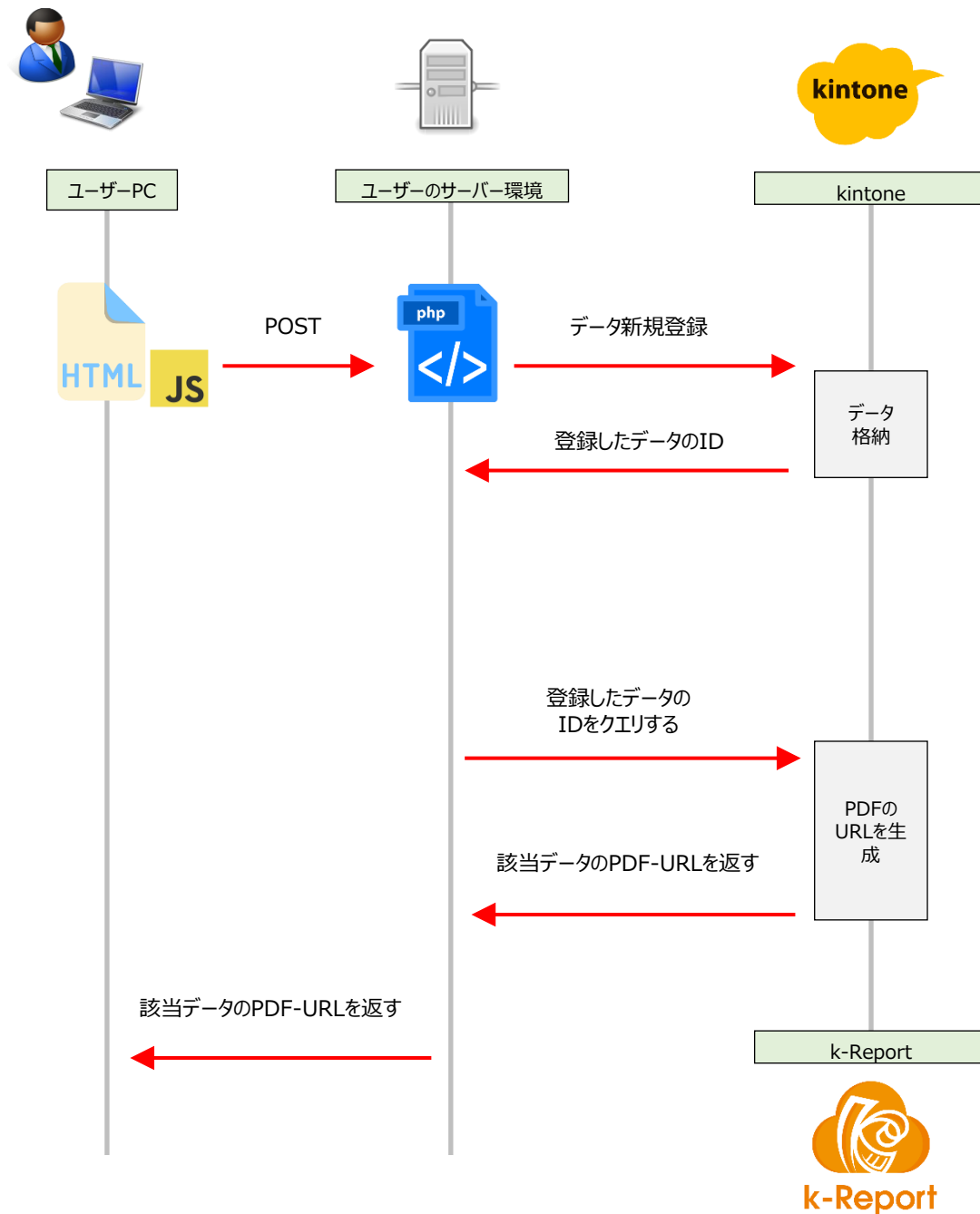
実際の取得したデータの扱い方、処理サンプルは同梱のPHPファイルの内容とコメントに記載された説明文をご確認ください。

データ処理フローサンプル

例① クエリに該当する各レコードのPDFファイルをバッチ的に取得する



例② 外部システムからデータを受け取り、k-ReportでPDFのURLを生成する



https://k-report.work/#api_demo

に掲載されているサンプルは上記のフローで構築されています。